

# 鴻巣市立鴻巣南中学校における 武道授業の実践紹介

鴻巣市教育委員会

鴻巣市は埼玉県<sup>しょうご</sup>のほぼ中央に位置し、南西部を秩父山地を源流とする荒川が流れ、関東ローム層や荒川沖積層からなる肥沃な土地で、気候にも恵まれ、花卉<sup>かき</sup>や果樹などの栽培に適しています。平成17年10月に、鴻巣市・吹上町・川里町の3市町が合併し、新鴻巣市が誕生しました。鴻巣市は、380余年の伝統を誇る「ひな人形のまち」として、近年では「花のまち」として、全国にその名が知られています。

鴻巣市における「潤いと光ある鴻巣教育」という基本理念のもと、鴻巣市立鴻巣南中学校では、「志を立てて 未来を拓く 南中生 ○自ら学ぶ確かな学力 ○思いやりある豊かな心 ○たくましく鍛えたからだ ○校訓『清正明進』 清く、正しく、明るく、進んで」という学校教育目標を掲げ、教育活動に取り組んでいます。



花まつり



荒川 川幅日本一



花火大会4尺玉



びっくりひな祭り

## 1 はじめに

埼玉県においては、ラグビーワールドカップ2019大会、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しています。

埼玉県スポーツ推進計画（平成25年度～29年度）における取組の成果と合わせ、両大会の成功と高まるスポーツへの関心を更なるス

ポーツ振興へとつなげていけるよう、平成30年度に埼玉県スポーツ推進計画（平成30年度～令和4年度）が策定されました。その計画では、今後、本県が目指すべき施策の方向性や取組が示されています。

学校体育においては、「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」を目指して取り組んでいます。

ここでは、鴻巣市立鴻巣南中学校の実践を紹介します。

## 2 実践内容

鴻巣市立鴻巣南中学校では柔道の学習を第1、2学年で9時間、第3学年では領域選択で10時間実施しています。

以降、第2学年での授業実践を紹介します。

### (1) 柔道の特性

柔道は、武技・武術などから発した我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動であり、相手を尊重し、公正な態度で勝敗を争う行動が要求されます。練習の積み重ねを通して、瞬発力、持久力、調整力などを養うことができ、さらに相手と格闘し合う中で気力、克己、公正、遵法などの態度を養うことができます。

柔道特有の技能面の特性は2つの要素に分けることができます。

1つ目は、自らの安全を確保する

ための個人的技能です。2つ目は、相手との直接的な格闘を課題とする対人的技能です。受け身以外の練習では、常に2人組以上の活動となり、相手の体格や動き、心理的な変化に合わせて運動することが求められます。

### (2) 生徒の実態

- ① 体育の授業は好きですか
  - ・ 好き29人 (85%)
  - ・ 嫌い0人 (0%)
  - ・ どちらでもない5人 (15%)
- ② 柔道は好きですか。
  - ・ 好き17人 (50%)
  - ・ 嫌い0人 (0%)
  - ・ どちらでもない17人 (50%)
- ③ 柔道の経験について
  - ・ 習っていた0人 (0%)
  - ・ 授業以外であり0人 (0%)
  - ・ なし34人 (100%)
- ④ ルールについて
  - ・ 理解している0人 (0%)
  - ・ 一部理解している17人 (50%)
  - ・ 分からないので不安17人 (50%)

⑤ 柔道の授業でどのようなことを学びたいですか

- ・ 自分より大きい人の倒し方
- ・ 相手の倒し方
- ・ 自分の守り方
- ・ 受け身・楽しさ・礼儀
- ・ ルール・投げ技・固め技
- ・ 集中力・歴史



柔道の授業風景

また、本校の保健体育科のスロ―ガンとして掲げている「全体育育―一生懸命がかっこいい―」を



ICT機器活用による技の説明

〔例〕基本動作から大腰ができるようにしよう。



量を背負う練習で感覚をつくる

・体さばきの練習  
・畳を背負う練習  
・相手を背負う練習  
・相手と組んだ状態から練習



大腰の実践学習

〔6〕学校課題研究とのつながり  
本校の学校課題研究の研究主題は「学ぶ楽しさを味わえる『わかる授業の展開』」伝え合い 教え合い 高め合う学習を通して―  
です。保健体育科の研究主題は「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく体育授業の実践」伝え合い 教え合い 高め合う学習を通して主体的に行動できる生徒の育成を目指して―です。

実践することで、努力や成果を互いに認め合い、やる気が溢れる活気に満ちた授業の展開を目指します。  
〔7〕授業の展開例  
①受け身の練習・確認  
②固め技の簡易試合  
③本時のねらいの確認

〔4〕技の説明（ICT機器の活用）  
【大腰の抑えるポイント】  
・崩し方 ・体さばき  
・目線 ・引き手  
・釣り手  
⑤ペア・班別練習

〔3〕生徒に身に付けさせる力  
○関心・意欲・態度  
武道の学習に積極的に取り組む、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや健康・安全に気を配ることができるようにします。  
○思考・判断  
『礼』に代表される伝統的な考え方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにします。

動きを実際の映像で確認し、正しい形を身に付けさせることで、技能の向上と安全を確保しました。また、生徒に手本となる動きを見せることで、より技能を高めたという意欲を向上させました。

①継続して受け身、固め技を練習することによって技能の習得や上達を実感できるようにしました。  
②要点を絞り、簡潔に説明することで、練習時間と運動量を十分に確保しました。  
③班編成を体格別にして、安全に留意しました。  
④課題解決を図る過程を重視するため、視聴覚教材を効果的に活用し、正しい動きを理解させました。



受け身の練習（ペア）



受け身の練習（個人）

アンケートの結果より、ルールについて分からず、不安に感じている生徒が全体の50%でした。ルールを分かりやすく理解させ、安全面を確保するとともに、教え合い、高め合いに重点をおくことで、不安を取り除くことが必要だと考えました。さらに段階的指導を行い、できることを増やしていくことで、技能を高め、柔道が好きな生徒を増やしていきたいと考えました。

○技能  
技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにします。  
○知識・理解  
柔道のルールや礼儀作法について理解するとともに、技能を高めるための練習の仕方を理解できるようにします。  
〔4〕教師の指導観  
本単元では多くの生徒が柔道の学習やルールに不安をもっている実態から、安全面を確保して、柔道の基礎・基本を身に付けさせることに重点を置いた指導を展開しました。また、それに加えて、運動量を充実させ、正しい形を意識させるため、視聴覚教材（ICT）を活用し、場の工夫をしました。



資料を活用した技能指導

⑤技能習得に向けて、ペア・グループ学習を行い、アドバイスを励まし、称賛の声かけを行わせました。  
⑥生徒が主体的に取り組めるように、技能のポイントや課題解決の手立てが分かる資料を提示しました。  
⑦自らの課題を可視化するため、練習の様子をビデオに撮り、「ふり返り」やアドバイスの場面に使いました。

⑥簡易試合

⑦本時の振り返り

- ・学習カードの記入
- ・分かったことや気付いたことを発表

⑧次時の予告

(8)成果と課題

①成果

- ・授業規律が確立できていたため、安全かつ効果的に体力や技能が高まり、柔道の楽しさや喜びを味わわせることができました。

- ・技のポイントを明確に提示し、それをもとに、生徒同士の教え合いや教師の称賛を行ったため、生徒同士が互いに学び合い、鍛え合い、高め合いができました。

- ・パートナー、グループで活動する時間を設けたため、教え合いがしやすく、苦手な生徒も主体的に学ぶことができていました。仲間同士での思いやりの心もはぐくむことができました。

- ・映像を用いて、視覚でも確認したことで、正しい形が理解でき、

技能の向上に大きな効果がありました。

- ・段階的指導で、安全面に配慮したため、恐怖感を感じていた生徒が、恐怖感を感じることなく取り組むことができました。

②課題

- ・教え合いの際に、各グループにタブレット等が用意できれば自分の動きと、正しい形を比べながら効率よく学習することができるだろうと考えます。

- ・固め技の簡易試合も2人組ではなく3人組にすれば、それでも教え合いができると考えます。



固め技の簡易試合

③授業後の児童の実態

①体育の授業は好きですか

- ・好き 34人 (100%)
- ・嫌い 0人 (0%)

②柔道は好きですか

- ・好き 33人 (97%)
- ・嫌い 0人 (0%)

③柔道の授業を終えて

- ・どちらでもない 1人 (3%)
- ・投げ技が決まると気持ちいい 13人 (38%)

・固め技の試合が楽しい

- 9人 (26%)
- ・受け身がうまくできると気持ちいい 7人 (21%)

・礼儀、集中力が身についた

- 5人 (15%)



技の示範

3 おわりに

埼玉県においては、平成24年度から必修となった武道・ダンスの授業を安全、円滑に実施できるよう、毎年、武道・ダンス実技指導者講習会、柔道安全指導講習会を通して、保健体育科教員の資質・指導力の向上を図り、中学校における武道・ダンスの指導の充実を図っています。それぞれの講習会では、授業において実践できる効果的な指導法や、事故発生要因及び発生メカニズム等の授業の安全管理についての研修を行っています。毎年これらの講習会を受けて授業実践を行い、成果を得ている中学校が多くあります。武道において学ぶことは学校生活のみならず、私生活においても多岐にわたって生かすことができます。それだけ、学校体育における武道の授業の価値は大きいと考えます。